

特別講演

犬と猫の様々な糖尿病症例

～プロジンク、フリースタイルリブレの使用例も含めて～



日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学科 獣医保健看護学臨床部門・准教授
日本獣医生命科学大学附属動物医療センター 内分泌科担当医

森 昭博 Akihiro Mori

略 歴 :

- 2006年 日本獣医生命科学大学獣医学科卒
- 2009年 日本獣医生命科学大学大学院獣医生命科学研究所獣医学専攻博士課程修了
- 2009年 日本獣医生命科学大学獣医学部獣医保健看護学科臨床部門助教
- 2012-2013年 イリノイ大学に留学
- 2014年 獣医保健看護学科 獣医保健看護学臨床部門・講師
- 2019年 獣医保健看護学科 獣医保健看護学臨床部門・准教授

要旨

犬や猫の糖尿病治療は、新しい動物用インスリンの開発や、ヒト糖尿病治療の発展とともに大きな変化が起こっています。今回はプロジンクを中心とした、犬と猫におけるインスリン選択のコツをまずお話します。また近年販売された持続型血糖測定器であるフリースタイルリブレの獣医療での臨床応用の可能性についてもお話します。また症例として犬の糖尿病性ケトアシドーシス、猫の食欲不振、犬と猫において炎症マーカーが高い場合の血糖コントロールについてもお話させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。